

2020年2月15日（土）

# 障害学生支援専門テーマ別 セミナー 【話題提供】

宮城教育大学  
特別支援教育講座  
准教授 松崎 丈

# 学生本人の意思表示や自己理解

当初の様子

## ■ APDの説明は専門家の語りを引用

例) 脳の中樞神経に何らかの原因があり、聴き取りが困難となる障害。

## ■ 長年の自己スティグマや医学モデルからの語り

例) 空気の読めないことを急に言い出したり、話しかけても気づかなかったりします。ごめんなさい。申し訳ないです。

## ■ 公的スティグマへの恐怖感を抱えながら語る

例) 私が聴き返すことやKY発言をすることによりあまり腹を立てず、見逃してほしいです。

# その後の意思表示や自己理解の変化

現在の様子

## ■ APDを社会モデルの視点から自分のことばで語る

例) 「注意」の機能が弱い。一生懸命に聴き取る  
が、ざわざわした場所、多人数の会話など、  
聴き取る環境によって聴き取りの困難が  
起こる。環境を整えるお手伝いを。

## ■ 困りごとと対処法が具体的に繋がった語り

例) 話者以外に注意が向いている時に、音声は  
聴こえるが、意味の理解はできない。音声  
が聴こえれば注意を向けるが、注意を向ける前  
に言った言葉は分からないので、聴き返す。  
もう一度初めから教えてもらえると助かる。

# 本人の変化に関わったと思われる 二つの対話

## 1. 自分に必要な支援の見方や手段をさぐる対話

- しょうがい学生支援室コーディネーター
  - ・自分に必要な支援を模索できるように対話
- 聴覚障害関係の専門家（耳鼻科、大学教員など）
  - ・APDとは何か、聴覚をどう活用するかを対話
- 聴覚障害のある学生やAPD当事者
  - ・自分の障害や支援の受け止め方に関する対話

## 2. 自己回復と自分発見につながる対話

- ・大学入学までの様々な人生経験を共有する対話
- ・自分自身の困りごと（障害状況）や対処法（自分の工夫と他者による支援）を研究する対話

# 意思表示は自己理解と 相互に作用しあっている

